

事務事業名		大学とのネットワーク構築事業			会計	一般会計					
課等名		企画課			事業種別	政策		開始	8	終了	
基本計画上の位置づけ		政策	8	山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり							
		施策	81	交流による高付加価値化・国際化の推進							
目的	対象(誰・何を)	飯田市が、知識や情報を得るために必要とする大学			対象指標	指標名及び単位				24年度数値	
	意図(どういう状態にするか)	①様々な大学との連携・交流を通じて、②大学が有する情報や専門的な知見を地域に呼び込み、③飯田の取組との融合を通じて④人材育成、人材誘導、地域振興につながる				市として交流・連携すべき大学(産業界施策分野に関する大学は除く。「学輪IIDA」に参画いただいている				27大学	
	向上させたい上位施策の成果指標	○都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏を除く) ○大学・海外等との「共同」プロジェクトの数									
目標	種別	指標名及び単位			24年度計画	24年度実績	25年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)		
	成果指標	誘致した大学数(フィールドスタディ・インターンシップ等の延数)			20	15	16	20			
	成果指標	誘致した学生数(フィールドスタディ・インターンシップ等の延数)			400	558	500	600			
定性目標											
事業概要	<p>※南信州・飯田フィールドスタディや飯田大学連携会議「学輪IIDA」の取組等を通じて、飯田を起点に多くの大学とネットワークを形成し、モデル的な取組を地域とともに実施することで、この地域ならではの大学機能の構築を図り、人材育成や地域振興に寄与する。</p> <p>1 南信州・飯田フィールドスタディなど、大学生等を対象に地域資源(人・モノ)を活かした体系的なカリキュラムを構築し提供することで、飯田を拠点に複数大学が共同で学習・連携するシステムを構築する。</p> <p>2 学輪IIDAのネットワーク等を活用することで上記のシステムを更にステップアップさせ、複数大学による単位認定・単位互換など大学連携コンソーシアムへと発展させる。</p> <p>3 飯田を起点に複数の大学が有機的につながり、大学の専門的な知見と地域の取組とが融合する機会をつくることで、人材の育成や取組の高度化を図る。</p>										
事業内容					名称			活動指標			
24年度事業内容	1 南信州・飯田フィールドスタディの実施 (1)カリキュラムの構築 (2)受入体制の整備 (3)教材・資料の整備 (4)大学への周知・募集、連絡調整 (5)市民等による講義の実施				1 参加者数(大学数、学生数)			1 9大学、130人			
	2 共通カリキュラム実証実験 (1)モデルカリキュラムの作成と実践 (2)カリキュラムの検証・総括 (3)共通カリキュラムの構築 (4)学輪IIDA全体会等での報告				2 参加者数(大学数、学生数)			2 3大学、29人			
	3 インターンシップ受入れ				3 受入人数			3 14人			
	4 学輪IIDAの取組 (1)関係大学・教授等との連絡・調整 (2)プロジェクト活動の展開 「飯田工業高校後利用PJ」及び「共通カリキュラム構築等PJ」 (3)学輪IIDA全体会の開催				4 会議・プロジェクト活動の回数 (全体会・プロジェクト)			4 12回			
事業コスト		23年度決算額	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	特定財源内訳、補足					
事業費計(千円)①		4,178	7,334	5,091	4,254	22(国) 緑の分権改革調査事業 23・24(そ) 地域活性化交付金活用基金充当 【特定財源】住民生活に光をそそぐ交付金 24(国) 「域学連携」地域づくり実証研究事業 24(県) 地域発元気づくり支援金					
国庫支出金			1,000	841							
県支出金			500	287							
起債											
その他		900	2,500	1,003							
一般財源		3,278	3,334	2,960	4,254						
人件費計(千円)②		0		7,690							
正規職員所要時間				2,000							
臨時職員所要時間				500							
総事業費①+②		4,178	7,334	12,781	4,254						
事業内容・目標達成状況の振り返り	南信州・飯田フィールドスタディや学輪IIDAの取組などを通じて、飯田が受け入れた(教員・学生数は、前年度よりも増加している。また、総務省「域学連携地域づくり実証研究事業」を活用し、学輪IIDAのプロジェクト事業として共通カリキュラム構築に向けたモデルカリキュラムの作成と実践を行った。学輪IIDA全体会を通じて、大学連携の取組、成果、今後の方向性等について共有した。										
改革改善の考え方	①問題点	知のネットワークによる21世紀型戦略的地域づくりを進めていくために、大学連携の取組を更に全市的・全庁的な取組へ展開させていく必要がある。									
	②改革提案	庁内における大学連携推進体制の整備と、地域や市民を巻き込んだ実践活動の展開。									